

2015.5

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行  
定価1部100円/1年1000円(送共)  
郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3  
TEL. 03-3814-3591  
FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>  
E-mail: [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)



4月4日 本科・日本語科合同入学式

## A先生の新語コーナー



### yídài yílù “一带一路”

シルクロード経済帯(ベルト)と21世紀海上シルクロードを指す。アジアと欧州を結ぶ2つの経済圏を築くもので、前者は中国から中央アジアへと延び、後者は東南アジアと中東を経由する。習近平国家主席が、2013年秋に提唱した。中国はこの構想を実現するため、アジアインフラ投資銀行(AIIB)は別に、シルクロード基金を設立し、400億ドルを拠出する意向を表明した。各国が不足するインフラ建設の資金を提供するという。(A)

倉石賞記念連続講演会第3弾 2015.2.21

## 武田一顯記者講演会報告 「中国と日本 いまとこれから」

先生们、女士们下午好！我是武田一显，是日本TBS电台的政治记者。我是从87年到88年在日中学院学中文的。今天回这个学校来向大家讲话，特别高兴，这不是衣锦还乡吧！

武田一顯です。私はTBSラジオの国会担当記者をやっております。学生の時1987年からこの日中学院で中国語を勉強しました。18年経ち、そんな日中学院で講演と言う形で話ができることは、まさにその「錦を着て故郷に帰る」という思いで今日はお話をさせていただきます。

今日は、まず「periphery」という英単語からお話を始めようと思います。そして中国史を振り返り、そこから見た今の中国の話をし、さらには日中関係、特に尖閣から見た日本側の問題点をお話します。旧正月で、爆買いが大変な話題になっておりますのでその話をして、そこから香港台湾を見て、日本との関係に戻ってお話をしようと考えています。

まず「periphery」です。これは「辺境」と言う意味です。コロンブスがアメリカ大陸を発見したのが1492年。ところがそれより500年ほど前に、実はアイスランドのバイキングが西暦1000年より少し前に、アメリカ大陸にすでに渡っています。さらにアイスランドのことで言うと1986年、当時のアメリカのレーガン大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が初めて、米ソ首脳会談を行ったのが、アイスランドです。アイスランドの大統領が、米ソ首脳会談を仲介するわけです。つまり辺境の地の人が

影響を及ぼして世界が動いている、歴史が動いていくということなのです。日本でもそうです。日本で明治維新をおこしたのは薩長土肥と言われますけれども、主に薩摩と長州ですね。長州のある種の狂気が、明治維新という天下を動かす状況に繋がったわけです。

中国人に聞くと、「periphery」は“边疆 biānjiāng”という言い方になるようです。今の中国には、新疆ウイグル自治区があり、新疆の人にしてみれば、自分たちは辺境ではないと言うでしょうから、言い方は難しいのですが、辺境から変化は起きていくということは中国でも例外ではありません。中国の歴史にあてはめてみましょう。去年亡くなったドイツのヴァイツゼッカー大統領が、「過去に目を閉ざす者は現代に対しても盲目となる」と言ったように、やはり歴史を振り返ることによって、現代あるいは未来が見えてくるだろうと考えるからです。

中国史の最初から行きましょう。殷はよしとして、そのあと、殷周革命というのが起こります。殷が周という王朝にとって代わられるのが、殷周革命ですね。その中に出てくるのは、周の文王昌、武王発、その後、周王朝を補佐した名臣・周公旦、そして釣り人太公望です。それが悪逆非道の殷の紂王を倒すわけです。その紂王をたぶらかす寵妃の妲己は今でも悪い女の代名詞となっています。本当に悪かったかは、実はよくわからないですね。

紂王が悪逆非道というのは史記の殷本紀に出てきます。“以酒为池、

悬肉为林「酒を以て池となし、肉をかけて林となす」、所謂「酒池肉林」の典拠です。紂王は自分の庭園に酒で池を作り、その後ろの木々に肉をかけ、そして裸の男女に追いかけてこをさせるという贅沢の限りを尽くしたと。贅沢の限りなのか、ある一定のシャーマニズムなのかはちょっとわからないのですが、司馬遷は少なくとも悪だということを書いています。そして「長夜の飲に及び」と、つまりずっと夜通し酒ばかり飲んで、さらに人間を焼き殺す炮烙という刑罰を行ったりしました。そういう非常に残酷な刑罰、処刑法を編み出し行ったと言われています。さらには自分の叔父であり殷の三仁と言われた比干が、紂王に「やめたほうがいい、ひどすぎる」と進言すると、紂王は「聖人の心臓には7つの穴があいているそうじゃないか」と言って、生きたまま解剖して“观其心”「その心臓を見た」と言います。その悪逆非道の限りを尽くした紂王は庶民の怒りを買って、周の文王が太公望呂尚を見出して、その子の武王発の時に東に攻め上った。当時の周というのは今の西安のあたりですから辺境ですが、そこから東に攻め上って、殷を滅ぼすというのが殷周革命の、いまから3000年前の王朝の交代劇です。今でも政権が交代する時は、その当時と全く変わっていません。文王が行ったのは、太公望等の人材を集めるということです。今の政権が悪政であれば逆に徳治を行う。そして次は他国と連合する訳です。例えば当時は、召という国があり、そういう人たちと手を組み、人を増やして攻めて行く。攻めていく時には、酒池肉林、あるいは炮烙の刑を行うなど、政権が朽ち果てていることを喧伝しながら攻めていけば、ほとんど労力を使わずに天下をひっくり返すことが出来ます。私に言わせれば2009年の時に自民党から民主党に政権交代したこともまさにそうです。政権交代というのは、中国では3000年前からすでに同じ流れの中で起きているのです。しかもそれは、辺境「periphery」から起きてくる。

王朝の話に戻りますが、春秋戦国です。春秋五覇、あるいは戦国七雄の覇者となったのは、真ん中の方の国もありますが、当時の呉とか越とは、江蘇、浙江、上海のあたりですから、まだまだ田舎です。そうした地方から出て行って覇を唱えるわけです。つまり常に「periphery」から変化が起きて来て中原を変えていくというのが、中国の歴史です。

秦を見てみましょう。秦は当時の中原つまり都会の感覚からすれば、西方の田舎者です。野蛮な民族だと思っていた秦の始皇帝が、中国を一気に統一するのです。これも、また、「periphery」=辺境からの大きな変化だと私は考えています。秦はあえなく滅びるのですが、この後に項羽と劉邦の時代が来ます。劉邦はどの本を読んでもならず者だったと書いてあります。劉邦の出身地は江蘇省あたりですから、やはり田舎の出身です。その劉邦が自分達の田舎の仲間である蕭何、樊噲、曹參たちを束ねて、どんどん偉くなって、そして張良という頭脳を得て、韓信といういわば兵隊を動かす手足を率いて、項羽と戦い、項羽を破り、漢という国家を作ります。私は劉邦を「periphery」から出てきた英雄だと思っていますが、それより私はその後の漢という国の王朝内部でのあり方、作られ方が非常に面白いと思っています。高祖劉邦の妻である呂雉は、元々劉邦よりは相当大きな任侠の娘でした。ここはまだ王朝が出来ていませんから（その身分を問うかどうかは）よしとして、文帝の妻であった孝文皇后は、卑賤の出であったろうと言われています。さらにすごいのは次の皇帝の景帝です。景帝の妻である王皇后は後の武帝を生みます。この王氏は再婚なのです。景帝が親王時代に、当時、他の誰かと結婚して子供も居た王氏を、母親が引き離して、景帝の後宮に入れたところ、何のいわれか景帝はその王氏を見初めたというんですね。稀にはあるのかもしれませんが、再婚で、しかも子連れの人が、皇帝（武帝）の母になる。今の感覚ではちょっと信じられません。これを「階層の攪拌」といいますが、階層がぐちゃぐちゃになるわけです。先に言ったように、王皇后は先に1人女の子を産んでいます。景帝の子の武帝は皇帝になってからか或いは皇太子の時だったかにその姉に会いに行きます。姉は恐ろしくて家の中に引きこもってしまいますが、武帝は怒りに来たわけではなく、ただ一目会いたいと思ってきたと、宮廷に呼ぶのです。確かに武帝が賢帝だということもあったのですが、当時はそういう（階層が乱れた）時代。

さて、武帝ですが、最初の陳皇后とはいわば離婚し、姉の平陽公主の所にいたダンサーである衛子夫を見染め自分の宮殿に呼び、寵愛します。その衛夫人の弟が大將軍・衛青で、その甥が霍去病です。この衛青と霍去病でもって漢は匈奴を打倒し世界に冠たる大帝國を築きます。設立以来、階

層を攪拌することによって優秀な人材を取り上げてくる。これはいわば先ほど言った地理的な「periphery」ではなくて、血族の中における「periphery」= 辺境。外からどんどん優秀な人材を取ってくることによって、黄金期を築いたのがこの武帝までの時代です。しかし、武帝は在位が長くなると、最後の方は誰でもそうですが、だんだんおかしくなり、女色に溺れるわけです。そうになると、王朝自体がいよいよ衰退期に入ります。一番良い例が、衛子夫が太子と一緒に反乱を計画したと言いがかりをつけられて、武帝に処刑される「巫蠱の乱」です。そこで階層の攪拌が終わるのです。自分で攪拌した階層をもう一度高貴なものに戻そうとすることによって王朝が衰退していくわけです。これが漢の時の階層の攪拌によるいわば、「periphery」の効果です。

そこでもう一度後代の王朝の話に戻しましょう。三国志などは「periphery」三つの戦いですよ。曹操というのは宦官の孫です。劉備は、景帝が王氏ではなくて別の女性に産ませた子供である中山靖王劉勝の末裔であるということから三国志は始まるわけですが、本当かは分かりませんが、筵を打ってたような者で、そこから蜀の皇帝となった。ですから三国志は辺境どうしの争いということですね。その中で比較的血統がいいと言われるのは呉の孫堅・孫策・孫権です。

その後の歴史では、隋、唐も「periphery」から生まれた王朝です。モンゴルは正に「periphery」- 草原から出て来て世界帝国を作りました。清は最も典型的な例の一つでしょう。当時満州族が南下して、中国を統一する。清について長々触れませんが、殷や秦と同じように朽ち果てていた明王朝を打ち倒すわけですね。清という大帝は、北の満州の「periphery」から出て来て、中国を瞬く間に統一し、そして中国の文化、文明をどんどん取り入れていって、その後の安定を築く、中国で最大の版図をもつようになるわけです。まったくもって「periphery」から出て来たと言ってよいと思います。その視点から今の中華人民共和国を見てみると全く同じことが言えます。今の中国を作った最大の功労者である毛沢東は、湖南省韶山の出身です。劉少奇も湖南出身です。劉邦の時代、沛という江蘇省のあたりから出てきたのだとすれば、中国革命の元勳のほとんどが、湖南、四川の出身ですね。朱徳も四川省。周恩来は、江蘇省ですが、江蘇省は昔とは違い、この当時はどち

らかと言えば都会的でした。だから周恩来と言うのは一人だけ、少し洗練されているわけです。後は、かなり南の「辺境」出身の人達が1949年の中国革命を成し遂げたということが言えるでしょう。本当に、何故ですかね。地方にたまったマグマのような庶民の不満が噴火し、広大な中国全体をひっくり返してしまうなんて、非常に不思議と云うか（なぜなのか）。その後の中華人民共和国の事実上の初代皇帝が毛沢東だとすれば、華国鋒の時代があって、そのあとは鄧小平の時代です。鄧小平も四川省出身です。フランスに留学していたと言われていますが、実態は仕事をしていて、勉強をするという状況ではなかったらしいです。したがって苦学力行して、そして中国の革命の元勳にのし上がっていきます。その「periphery」から生まれた今の中華人民共和国であります。現在のトップはご承知のように習近平です。習近平は、歴史的に二つの大きな特徴があります。一つは、1953年生まれですから解放後に生まれた初めての共産中国の最高指導者です。それから、もう一つ彼は、陝西省の人だと言っていますが、父親の習仲勳、習家というのは、故郷は陝西省で、中国人は故郷と出生地が違うことが多々あり、習近平は名前の由来をご存知かと思いますが、「平」というのは“北平”の意味、つまり北京のこと、“北平”の近く、北京で生まれたから「近平」という名前をつけたわけで、習近平は北京の出身なのです。北京で生まれた最高指導者も初めてです。毛沢東は湖南、鄧小平は四川、華国鋒も湖南です。江沢民は浙江、胡錦濤は上海出身といわれています。先ほどの「階層の攪拌」という考え方から言えば、階層の攪拌が止まってきた、習近平はそういう最高指導者だと見ることが出来るのです。しかも、数え方は難しいのですが、初代毛沢東から数えて、華国鋒が二代目、鄧小平は最高指導者ですが地位としてのトップになったことはないですけれども三代目と数えれば、習近平は6代目ですね。先ほどの漢の武帝は第7代目。清は、ヌルハチ、ホンタイジから数えると康熙、雍正、乾隆がだいたい6代目とか7代目とかになるのですが、そのときに最盛期になって、そこから右肩下がりにグッと下がっていくという歴史的な流れがあります。

明も同じで、永楽帝が最高で、唐も玄宗皇帝の時に最高になって晩年は落ちていくわけです。こうした歴史を考えると、習近平は、北京生まれですから地理的な「periphery」から、解放された

人であるし、さらには階層としての「periphery」からも、実は解放されている人であります。父親が元共産党の大幹部ですし、習近平夫人もずいぶん都会的な人。先ほど話した武帝の衛皇后は元歌手。その時代の歌手は貧しい感じがしますが、習近平夫人の彭麗媛は解放軍の歌手で、這い上がってきたという感じの人ではありません。どうも共産中国は、階層の攪拌が終わった時代、しかも太子党という指導層の二代目、三代目が一つの身分－太子党は派閥という人がいますが派閥ではなく、一つの身分です－その身分としての太子党が幅を利かせる時代になっていることは間違いありません。習近平も太子党の一人ですから、中国は今が最盛期、もしくは衰退期に入ったというのが私の今の中国に対する見方です。

そうした中で、現在の日中関係はどうなっているのかを見ますと、経済についていえば横ばいになったと言っても日中貿易は31億ドル、つまり30兆円クラスの貿易を行っています。これがどれくらいすごいことなのかと言えば、日中国交正常化した頃の1970年位からのグラフを見ればわかります。当時の中国は文革の混乱期であったこともあり、今から見るとほとんどゼロなのです。1978年が改革開放ですから、そこからどんどん伸びて来たことがグラフを見ればわかります。

私は一つ大変に反省することがありまして。私が北京に駐在していた1994年から1998年、1999年にかけて、私も含めて北京にいる日本人の記者は、中国は発展しないだろうと言っていたのです。それは、我々にとって1989年6月4日に起きた天安門事件があまりにも衝撃的だったものですから、その後の中国は発展するはずがないと、自国民の将来ある学生を戦車と銃でもって殺すような連中が、経済的に発展するはずはないということで、そういう偏見の中で見ていたものですから、中国の悪い所ばかり報道していました。これは、私の尊敬する別の新聞社の記者が言っていましたけれども、だから我々はいわば90年代実はずっと誤報を流していたに等しいのだと言っていました。私はその記者は随分良心的だと思いますよ。ほとんどのマスコミはいまだに、そういう反省もなく、2000年代になると、今度は中国は発展する、素晴らしいと、同じ口で言うわけです。私は中国が世界帝国だったときの歴史を少しは知っていたので、中国はいずれ発展するのではないかとは思いましたが、それでも当時の中国へ行けば、その頃中国

に行かれたことのある方は分かると思いますが、トイレ一つ入るのも嫌になるというような時代に、こりゃこの国はダメなんじゃないかと思ったりもしました。私もそんなふうに揺れ動く見方の中で報道し、ニュースを作っていました。ただ90年代のマスコミ報道全体で言えば、中国は今後も発展しないだろうという間違った認識のもとに報道がなされていたわけで、私も力が及ばなかったという意味で反省しなければいけないと思います。日中貿易だけを見ても、質・量・額ともに上がっているわけですから。よく一衣帯水と言いますが、でも、日中関係は切っても切れない関係にあることは間違いありません。ただ問題は国民感情です。内閣府が「あなたは中国に親しみを感じますか？／親しみを感じませんか？」という調査を行っているのですが、大体、80%以上が中国に親しみを感じないという結果が出ています。親しみを感ずるといえるのは大体2割から3割です。特にこの2000年代に入り、ずっと下がってきている傾向が続いています。同時にこのあいだ朝日新聞に書いてありましたが、中国人で日本に好感を持つと言う人は4%しかいないのです。まあお互い全然好感を持っていないということです。これは私の感覚とも一致します。日本と中国の話をしてラジオやテレビでするわけですが、ラジオで中国の話をする、ネット上の反応がすごい。掲示板に「武田氏ネ」などと書いてあるのです。私のことを武田信玄、武田氏の末裔だと思っているのかと暢気に考えていましたが、あれはネット上の隠語で「武田死ぬ」という意味だと知って、「うわー」と思いました。ほかにも「中国の犬」なんて書かれています。今日は（中国に対して）批判的なスタンスで喋ったと思っても、中国のことをしゃべるといっただけで、異常なまでの批判、非難を受けるという状況にあります。本当に怖いですね。今中国との経済的関係は切っても切れない間柄であるにも関わらず、これはお互いの国民感情は極めて悪いという状況の一端と言っても良いでしょう。もちろん隣国ですから、完全に仲良くなることはあり得ないかもしれませんが、一軒家同士だって隣同士は仲が悪いじゃないですか。だから、しょうがないのは分かるのですが、あまりにも仲が悪いというのは問題でしょう。（つづく）

4月4日に行われました、中国語本科・日本語科の合同入学式で、昨年の四月に入学した留学生の何さんが自分の体験を踏まえながら、新入生に対するメッセージをユーモラスに挨拶しました。その頼もしく清々しい姿が大変心が打たれました。

中国語を学ぶ生の教材としても是非使いたいと何さんから原稿をもらいましたが、その場で挨拶を聞いた何人もの先生からコピーしてほしいと頼まれました。

より多くの方に異文化の地で頑張っている中国人の若者のことを知っていただきたいと思います。

胡興智



皆さん、おはようございます。

何かを楽しみに待つということ、その嬉しいことの半分に当たります。私は首を長くして、やっと一年生が迎えられました。でも、残念ながら、私たち2年生はクラスは、一人も女性がいよいよ卒業するでしょう。

私は、日本で一年過ごしましたが、日本の第一印象は四月の東京は桜に限ると思っていたのに、まさかマスクに支配されるとは思わなかったということです。日本語科一年生の皆さんもこれからいろいろなことに初めて出会うのでしょうか。私は、皆さんの先輩として、一つ覚えていただきたいことがあります。それは、赤っ恥をかくのをおそれないでいただきたいということです。私は、何度も赤っ恥をかいてきました。この前、先生に「何君、今度のテスト、頑張ってください！」と言われましたが、私は、「はい、頑張ってください！」と思わず返事してしまいました。自己紹介の時にも「私は、何君と申します。宜しくお願いいたします。」というミステイクを犯したことさえありました。でも、何度も何度も失敗を繰り返したおかげで、日本語がだんだん正しくうまく話せるようになってきました。もし、最初から「ああ、私はやはり日本語がダメだ」と思うと、今後の勉強にやる気が出なくなってしまいます。誰も最初からできるわけではありません。急がないでよく練習すれば、徐々にできるようになります。

皆さんは日本に来て、もう一つ目の曲がり角を曲がろうとしています。何のために日本に来たのか、日本で何を勉強したいのか、初心を忘れないでください。困っている時も、遠慮せずに、先生に相談してください。やる気をいっぱい出して、一生懸命勉強して、そして、いろんなことを一生懸命やってください。

勝つことの次にいいことは、一生懸命やって負けることだと私はずっとそう信じています。皆さんにもそう思っていたいただきたいです。

最後に、日中学院で後悔しない2年間をお送りできるように心からお祈り申し上げます。

どうもありがとうございました。

各位老师，各位同学：

大家早上好！

对于某件事情的殷切期盼，本身就已经是非常开心的了。我翘首以盼，终于迎来了你们一年级。但是，遗憾的是，我们二年级将会在一位女生都没有的班级中度过在日中学院的最后一年。

我来日本已经一年了。初到日本时，我本以为四月的东京应该属于樱花的，但是没想到四月的东京全笼罩在口罩之下。想必日语科一年级的各位在之后的生活学习中将遇到各种各样的苦难。在这里，我作为前辈，希望你们不要怕出错，出洋相。我也曾出过好几次洋相。有次，老师对我说“何君，这次考试加油！”我想都没想就回了老师说：“好的，老师，请你加油！”另外，有次自我介绍的时候，我说：“大家好！我是何先生，请多多关照。”连这种错误都犯过，但是，正因多亏了这一次次的失败我才慢慢地变得能正确，流畅得说日语了。如果从一开始就觉得自己的日语不太行，不去说，不敢说，对于今后的日语学习来讲，这是一件非常头疼的事情。谁都不可能一开始学就能说一口流利的日语，不要心急，慢慢练习，要相信自己能够做到。

大家来日本已经站在了新的人生点。为什么来日本，在日本想学什么，请不要忘记你们的初衷。如果在生活学习上遇到了什么不顺心的事，不要藏着掖着，找老师谈谈。提起你的干劲，努力学习的同时，请多尝试做些其他以前没做过的事。

只要拼尽全力就算没成功也值得，我一直坚信着这点。希望你们也能拥有这种心态。

最后，真诚地祝愿你们能在日中学院度过无悔的两年美好的时光。

谢谢！

何宇杰

# 私の勉強方法

本科卒業生

本科を卒業生から、在学中の勉強方法について寄稿を頂きましたのでご紹介します。

日中学院の本科に進学する際、研究班の年の8月に通訳案内士試験を受験するという一つの大きな目標をたてました。そこで、その目標に向けて中国語のレベルを上げていくにはどうしたら良いかと考え、長期目標を達成するための短期目標を細かく立てることにしました。

以下がその具体的計画です：

- ・1年生の6月に中検3級
- ・2年生の6月HSK5級→11月に中検2級、12月にHSK6級
- ・研究班の6月に中検準一級→8月に通訳案内士試験→11月に中検1級  
→12月にHSK口語高級（太線は初めから立てていた目標、それ以外は勉強していく過程で新たに立てた目標。）

かつてほかの言語を学んだ際に、語学の勉強で最も効果的な方法は、**听写→音読→シャドウイング→暗唱**というサイクルを繰り返すことだと感じたので、まずこの方法を採用してみることにしました。

## 1 听写

授業で新しい課に進む際には、まず予習の段階で听写をしました。「これが限界だ。これ以上はわからない」と思えるまで、何度も繰り返しCDを聞き、それから教科書を開いて答え合わせをし、間違った所はなぜ間違えたのか、どの音とどの音を聞き間違えているのかなど細かく分析しました。教科書以外に听写したのは『NHKラジオ レベルアップ中国語』です。また検定試験の前に問題集を使って練習する際は、リスニングの部分はすべて听写をしてから答え合わせをするようにしました。

### 听写した教材

- 1年生：『3級トレーニングブック・リスニング問題編（アスク出版）』、中検3級問題集
- 2年生：HSK5級問題集→『中検2級トレーニングブック・リスニング問題編（アスク出版）』、中検2級問題集、HSK6級問題集→中検準1級問題集  
また、2年生の夏休みには短期留学の際に口語、聴解の授業で使用した教科書は、授業で触れなかった課も含めて听写してみました。

- 研究班：『聴読中国語（東進ブックス）』、『中国語口語表現（東方書店）』→『NHKワールド・ラジオ日本中国語リスニング（語研）』→中検1級問題集、『別冊聴く中国語 音読でここまでわかる！中国語ニュース（日中通信社）』

## 2 音読→シャドウイング→暗唱

听写が終わると、次に音読、シャドウイングをしました。音読する際は、できる限りCDの音声をまねて、（ニュース以外は）感情をこめて読むように心がけました。また時々自分の音読を録音して、発音を確認したりもしました。シャドウイングは、CDの音声速すぎると感じた際は、スマホのアプリなどで速度を落として繰り返し練習し、少しずつ速度を上げながら、1.1倍速でもシャドウイングができるようになるまで練習してみました。自分で納得できるまで何度もシャドウイングを繰り返すと、自然とその内容も暗唱できるようになります。本科1年生の「基礎漢語」、2年生の「応用漢語」の教科書はその要領で暗記できたと思います。

以上が、私が特に意識して行っていた勉強法です。研究班に進学してからは、これらに日本語と中国語の新聞を読むこと、ラジオニュースを聞くことなど新たな課題が加わりました。

また、勉強の優先順位をつけることも大切だと感じ、私の場合は：

授業の課題（予習、宿題、復習）→毎日必ずやること（1年生2年生：『レベルアップ中国語』

研究班：新聞、ニュース）→余った時間で問題集などの听写

という優先順位をつけました。

つまりは、目標を具体的にすること、なんとなく勉強せずに優先順位を決めてみることに、耳と口を鍛えることをおすすめしたいと思います。



別科「土曜会話Ⅲ(午前中)」で、文集を作りました。一部抜粋してご紹介します。

### 差点儿受骗 永田泰雄

A: 找我有事儿吗?  
B: 因为心里着急, 连电话也没打我就跑来了, 请原谅我的鲁莽, 求你一件事儿。  
A: 你着什么急呀! 请这里坐, 冷静一下说吧。  
B: 谢谢, 刚才我儿子给我们打电话说“我刚刚把提包落在电车里了。”  
A: 怎么? 你儿子已经28岁了, 大男子汉嘛, 这点儿小事他要一个个告诉你们吗?  
B: 他平常没有这样的习惯。不过他说这次把公司的500万日元放在那个提包里了。  
A: 你自己接的那个电话吗?  
B: 不是我, 我老婆接的。听老婆说儿子打算为了不给我公司添麻烦, 让我们今天下午准备500万日元, 儿子说到这里就把电话挂断了。

A: 嗯……我感觉这个电话有点儿不对劲儿啊! 你太太还告诉你什么了吗?  
B: 还有啊, 儿子不巧感冒了, 所以声音有点儿不清楚, 好像是别人的声音, 还有儿子换了手机号儿。  
A: 越听越奇怪, 值得怀疑。要不, 你给儿子以前的手机号儿打个电话试试吧。  
B: 好的。“喂! ……你忘的500万日元找到了吗? 啊! 是吗?”(跟儿子对话结束后)  
我儿子没有发生什么事情。这下我才发现我们差点上了骗子的当。  
A: 那就太好了。  
B: 太谢谢你了。

### 我们的会话班 城香

我想起一年前来这个班开始上课的时候, 同学们都汉语说得很流利, 让我担心我能不能跟上他们。可是, 开始上课以后, 我发现大家都是非常愉快的人, 他们对学习的热情给了我很好的刺激。老师的性情很开朗很温柔, 她说的汉语又清楚又容易听懂, 她很热情地教给我们汉语, 我放心了。

铃木同学结婚的时候, 全班同学在一张纸板上给她写祝词; 一个学期结束的时候, 我们一起开联欢会, 和睦畅谈, 这个班一直是一个很温暖的班。

以前我对学习汉语没有什么目标, 但是通过这一年和大家一起学习, 现在我希望能在2020年的东京奥运会上当一名志愿者翻译。

谢谢老师和同学们一年的热情关照。我希望明年以后也能和你们一起继续学习下去。



## 図書室 だより

新緑の季節、中国語学習の進捗状況は如何ですか? 「好きこそ物の上手なれ」という諺があります。中国語、好きになってください。

### 《今月の図書紹介》

●『老北京の胡同—開発と喪失、ささやかな抵抗の記録』多田麻美著 張全 写真 2015年晶文社刊



北京を舞台にした映画には必ずと言って良いほど胡同(フートン)が出てきたし、観光客には三輪リキシャ(輪タク)での胡同巡りツアーもある。しかし、中国の経済発展に伴って、次ぎ次ぎに姿を消していく胡同。この書は著者が北京の胡同に15年間暮らし、その劇的な変化を記録したものである。一頁に一枚は掲載されている写真は、夫でカメラマンの張全。このまま開発の波にのまれてしまうのか? 胡同の存亡を通して、そこに住む人々の思いが伝わってくる。

●『読む中国語文法』相原茂著 2015年



現代書館刊。本書は1997年に出版された『謎解き 中国語文法』がベースになっている。サクサク読めて、文法の復習ができるので便利。

『大事なのは、魚ではない。魚の捕まえ方である。』と巻頭に書いてある。捕まえ方が分かれば、次は習熟・・・。何事も楽をし

ていては身につかないようである。頑張らねば。

### 【寄贈】

下記の方々より寄贈がありました。有難うございました。

- 中西真様より『指尖太阳』(DVD)
- 趙海成様(著者)より『在日本中国人33人のそれでも私たちが日本を好きな理由』CCCメディアハウス
- 張武静様(著者・本学講師)より『日本人の論語 中国人の論語』アスク出版
- 匿名様より『戦場に咲く花』(DVD)

# 5月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
					<b>1</b> ●閉門(~6日)	<b>2</b>
<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b> ●本科・日本語科 別科授業再開 ●本科 学生支援 機構奨学金受付 締切	<b>8</b>	<b>9</b>
<b>10</b>	<b>11</b> ●本科 発音補助	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b> ●本科(2年・研究)・ 日本語科 健康 診断 ●中国語検定受付 締切	<b>16</b> ●特別公開講座 13:00~15:00 「中国で働く楽しみ」
<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b> ●本科・日本語合 同合宿(~20日)	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b>
<b>24/31</b>	<b>25</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b> ●本科2年 短研説明会	<b>30</b>

●6月の日中学院  
・3日…日本語科・別科昼食会(~5日)  
・5日…本科 進路懇談会  
・18日…本科2年定期試験(~24日)

・19日…別科公開講座(入門・基礎) 18:45~  
・24日…本科2年短期研修結団式  
・25日…別科学期間休み開始

・27日…別科公開講座 13:00~  
本科短期研修出発  
・28日…中国語検定試験

## 【耳目】

### ●特別公開講座 第一回『中国で働く楽しみ』

今回の「特別公開講座」第1回は、日中友好会館の武田勝年理事長に「中国で働く楽しみ」についてお話を頂きます。

武田理事長は、かつて学院で学ばれた大先輩ですが、お仕事では上海三菱商事総経理、中国総代表を歴任されるなど、16年に及ぶ中国駐在という貴重な経験をお持ちです。

申込み：日中学院事務局へお電話又は直接お申し込み下さい。

日時：5月16日(土) 13:00~15:00

受講料：500円(税込、入学金不要)

当日、教室入口でお支払下さい。

教室：日中学院302教室

### ●短期レッスンシリーズ「病院での中国語」

5月23日より始まります!

詳しくはチラシをご覧ください。

●元講師の百田弥栄子先生より「竹中憲一教育基金」へ100万円のご寄付を頂きました。ありがとうございます。

### ■お詫び

4月号(481号)のP1「A先生の新語コーナー」ピンインに誤りがありました。正しくは以下の通りです。大変申し訳ありませんでした。

“新常态” xīn cháng tài ⇒ xīn cháng tài



●訃報 2000年4月より教鞭をとられていましたが、黄曉恵先生が4月9日逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

### ●日本語科創設30周年記念同窓会のお知らせ

2015年4月、日本語科は30期生を迎えました。

1986年に第一期生を迎え、これまでに約1100名もの卒業生を輩出、皆様それぞれの分野でご活躍されています。

この度、今年の7月に創設30周年を記念して同窓会を開催することになりました。

日本語科現旧教職員の皆様、卒業、修了生の皆様、ご連絡のつく同学お誘い合わせの上、ご参加お待ちしております。

日時：2015年7月12日

11:00~13:00

会場：日中友好会館地下1F豫園

次号にでもう少し詳しい情報をお届けいたします。